

48<sup>th</sup>

令和3年度10月号 [10月15日(発行)]

校訓 自主・協同・創造



岸川中だより

川口市立岸川中学校  
川口市安行領根岸374番地の1  
TEL268-4506 FAX268-4761  
特別支援学級 TEL268-7110  
さわやか相談室TEL268-4510  
<https://kishikawa.official.jp>

## 1964年 & 2020+1年 今更だけど、東京オリンピック・パラリンピックを振り返って想う

校長 松田 隆幸

日本が最も輝いていたと言われる時代。高度経済成長の真っただ中。招致のスピーチは元外交官がおこなった。話の内容は、東京はFar East(極東)ではない。それは、心の距離である。この名文句で、各国の票を取りまとめ、招致した。戦後日本の復興の証。しかし、当時の東京の街は路や川にはゴミがあふれていた。世界の表舞台を経験したことがないということはそういうことであった。日本が変わる、日本人の何かが変わるきっかけのイベントだった。招致から5年で、当時の国家予算の1/3である1兆円をつぎ込んで街づくりが行われた。国民の生活改善もスタートした。国家挙げての取り組みを5年で仕上げる。高速道路・モノレール・ホテル……ありとあらゆるインフラが生まれ変わった。安全な世界初の高速鉄道、新幹線の開業。時間に正確な日本人の象徴的な乗り物。これも東京オリンピックがきっかけとなり、日本人の気持ちの奥底に、安全・高性能・正確な物づくりの基本の集大成が形になり、深く刻まれたのだと思う。開催年の1964年には、大湯水の水不足となり、取水制限生活や突貫工事の水路建設も加わった。聖火台も川口の鋳物職人が伝説の仕事で作り上げた。まさに、ALL JAPANの成せる匠の技であった。奇跡の工事の数々だった。1964年は……間に合った。そして開会式。太平洋戦争があった昭和の時代の天皇陛下が平和の祭典にご臨席。原爆投下の日に生まれた酒井さんが聖火の最終ランナー。聖火は、第二次世界大戦で戦地となった場所を敢えて選んで、ギリシャから運ばれてきた……平和日本のメッセージが随所に詰め込まれていた。閉会式は、各国入り乱れての行進。伝説の閉会式となり、今に語り継がれている。

そして、2020+1 東京はまた新たな歴史の頁に名を遺した。評価はまだまだ先のこととなるかもしれない。しかし、多様性と調和の精神は、既に、間違いなく高く評価されている。2020+1を機に、日本の中で、何か新しいものが生まれたことも間違いはない。その生まれたものは、今あるのもの終焉の序章かもしれない。生まれるということは何かの終わりを意味することが往々にしてあることは、珍しいことではない。今ある、目に見える絶対的存在は、既に無であり、幻想であるかもしれない。メダリストの練習方法は今やYouTubeである。サーフィン、スケートボード、フリークライミング等々、新たな種目が採用されている。フランス大会では、ストリートダンスが加わる。これらのことは何かの終わりが始まったことを示しているのかもしれない。

時代の創り手である生徒を預かる我々が、その変化を見逃しては、生徒の育成がままならないのでは?と感じる時がある。この変化の速さをどのように感じ取っているか?これからはその時の流れを見逃さない感性が大事なのかも……。

2020+1年は、2030年のためにあったのかもかもしれない。しかし、すべての「現在」は、連続した「今」の「未来」のためなのだろう。我々は、2030年問題の解決者である目の前の生徒の育成を使命とする覚悟がより深く求められる時なのでは?答えがないから解決できないのではない。答えがなくとも解決しなければならない問い。行政も、政治家も旗を振っている。埼玉の、川口で勤務していると気づかないかもしれない。人口が減っていることに気づきにくい。しかし、必ず訪れる2030年問題。その前の2025年問題。その時代を、目の前の生徒が未来を創る。我々は目の前の生徒に託すしかない。託せるように育てる。国家挙げての取り組みだと受け止めている。我々の仕事は、「間に合わせること」なのだ。未来の創造主が思う存分の力を発揮できるように……。「未来に間に合わせる」「人類の未来のために……」「誰も見たことがない未来のために……」大きな話ではあるが、ワクワクする話だ。2030年問題に間に合った!と言えるように。だからこそ、いい仕事をしようではないか!と教職員に投げかける日々である。

令和5年岸川中学校は創立50周年  
2023 Kishikawa.J.H.S 50<sup>th</sup> ANNIVERSARY